

十九番、石塚

「のちの世を 願う心は
軽くとも 仏のちかい
重き石塚」

真言宗 石塚山 蓮台寺

会津若松市川原町五一五〇

本尊 聖観世音 管理金剛寺

駐車場 あり

トイレ なし

会津若松市一箕町の大塚山にいた葦名(あしな)氏家臣の大塚山氏が石塚に移り石塚氏を名乗ります。本尊は、佐原十郎義連の護持仏という。堂は南北朝時代、葦名直盛の創建といえます。江戸時代初期蒲生忠郷(たださと)が、母で家康の娘・振姫のために再建したという。戊辰戦争で焼失し再建されています。



堂前に駐車。

二十番、御山(おやま)

「はるばると 登りて 拜む
岩屋さん いつも
絶えせぬ 峯の松風」

天台宗 神護山 照谷寺 住職住

会津若松市門田町御山字館山甲三〇八〇

本尊 聖観世音

駐車場 あり

トイレ あり☆

元は、会津若松市の斎場東側、岩屋内にありました。本尊は一寸八分の胎内仏です。八幡太郎義家が会津太郎という賊を討ち取った時に兜に付けていたのがこの胎内仏とされています。天平神護年間、八世紀中頃の創建とされています。柿の木の枝があり、道は狭く、マイクロバスは通れません。



堂前に駐車。マイクロ、中型は柿の枝より通行はできません。「松風の音」は「峯の松風」が正しい。

二十一番、左下り(さくだり)

「左下りは 岩にそびえて
かけ造り いつも絶えせぬ
松風の音」

臨済宗 左下山 観音寺

会津美里町大字大石字東左下り二一七三

本尊 聖観世音 集落管理

駐車場 あり

トイレ なし

県指定文化財

三層の懸け造りで、天長七年(八三〇)草創。堂は、延文三年(一一五八)に葦名氏家臣の富田将監祐義が修理し、その後江戸時代に建て替えられたものです。左下り、とは製鉄集団を「さげ」と呼んだことに由来し、そこに「左下」の文字をあてたもの。周辺には製鉄の遺跡がたくさんあります。三寸の柱を見つけると願いが叶うとされています。



観音堂近くに駐車場があり、乗用車は途中まで登れます。「峯の松風」は「松風の音」が正しい。



「朝日さす 夕日輝く 相川の
月もろともに いづる
みたらし」

曹洞宗 空窪山 自福寺
会津美里町水玉字相川丁三六五
本尊 十一面観世音 集落管理
駐車場 あり
トイレ なし
元は、現在地より北東四百間の地に
あったという。宝永六年（一七〇九）に高
橋宗元、吉川浄雲が現在の地に堂を移す
ことを発願し、享保二年（一七一七）に建
立されています。「御手洗」という泉が
集落の北にあったという。丘のうえにあ
ります。



堂東下に駐車。集落内道路狭し。

「高倉は 岩を積みし
山なれば 人の願いを
満つる高倉」

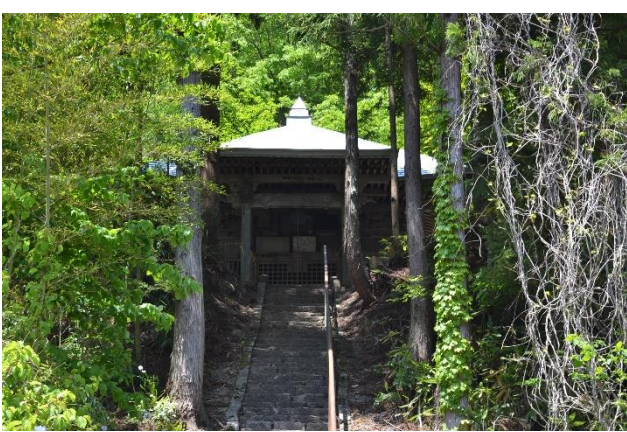
天台宗 稲菖山 高倉寺
会津美里町字丸山乙六九一
本尊 十一面観世音 集落管理
駐車場 あり
トイレ なし
平安末の高倉宮以仁王（もちひとおう）
ゆかりの地にある堂で、天長年間の九世
紀前半の草創。高倉宮が随行した長沢大
夫坊常春に観音像を渡し安置したもの
という。元は、山の西側ふもとにあった。
その後、階段下に移り、そして現在地の
階段を二百段登ったところに移りました。



農協付近に駐車。長い階段あり。「宝を積
し」は「岩を積し」、「人の願いも」は
「人の願いを」が正しい。

「散る花を とむる ひ玉の
関の山 雲を のぼりの
道は一筋」

真言宗 日当山 日輪寺
会津美里町字水玉字関山乙三八一
本尊 十一面観世音 集落管理
駐車場 あり
トイレ なし
本尊はもとは、会津若松市北会津町小
松にあったという。堂は元、階段下に
あったが、寛政二年（一七九〇）に五八段
の階段上に堂を整備したという。戊辰戦
争で、村は焼かれ、激戦となり、戦死者
墓が村南にあります。村の西には、モリ
アオガエルの生息地があります。



道路に駐車。「雲降り登る」は「雲
を登りの」が正しい。



「朝日さす 夕日輝く
領いけに だい非の光

有明の月

曹洞宗 延命山 常楽寺
会津美里町大字藤家館字領家
本尊 十一面観世音 集落管理

駐車場 あり
トイレ なし

建長元年(一二四九)に、美濃国より来た常延が十一面観音像を安置し創建します。建てたという。永禄の頃(一五五八、一五七〇)までは、阿弥陀、観音、地藏、大師、十王動堂の跡があったという。大永三年(一五二三)のワニ口があつちという。寛文年間の十七世紀中頃に堂が再建されています。



道路に駐車。集落内道路狭し。「領池の」は「領池に」が正しい。

「朝ぼらけ 賑わう 里に
立つ煙 誠の 人を
とむる富岡」

天台宗 日用山 福生寺

会津美里町大字富川字富岡甲八
本尊 十一面観世音 集落管理

駐車場 あり
トイレ なし

西国三十三所、満願となる岐阜県、美濃国谷汲山華嚴寺(たにくみざんげご分んじ)の創建に関わる大口氏が住んでいた所とされ、ゆかりの地に、華嚴寺の援助で寺が建てられます。堂は国指定重要文化財で、床下からは石に墨で経文が書かれた経石が出土しました。堂の西側墓地には、キリシタン墓があります。



大口大領(おおぐちだいらょう)の子孫は30代目大口和彦さんで、華嚴寺の門前で「富岡屋」という蕎麦屋をしています。

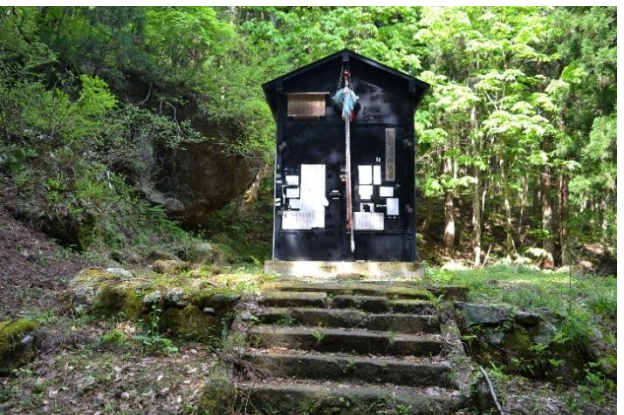
「近く見て 遠く 登るは
大岩の 池も 誓いも
深き谷河」

天台宗 錫杖山 法輪寺

会津美里町兜
本尊 聖面観世音 集落管理

駐車場 なし
トイレ なし

ふもとの青集落から林道を登ること約十は大きな岩があることから大岩と呼ばれています。昔は、小堂のある所に観音堂があり、南の岩屋建物がありました。寛永三年(一六三六)大雪で倒壊し、寛文六年(一六六六)小堂が建てられました。さらに山奥なため青集落内に堂が建てられました。



この堂近くまで、舗装道路がありマイク口で行けますので行きましょう。御詠歌は、まったく異なり「近く見て～」が正しい。



「昔より 立つとも 知らぬ

天王寺 奥の細道

とどろきの橋

天台宗 高田山 天王寺 住職住

会津美里町字高田甲二九六八

本尊 十一面観世音

駐車場 あり

トイレ なし

龍興寺の末寺で、保元三年(一一五八)に建てられ、堂はもと北東五町にありました。寛永十三年(一六三九)に現在地に移されました。寺の西に清水があり、その下流に橋があり「とどろき橋」という。戊辰戦争の一八六八年九月十八日、高田には会津藩家老の佐川官兵衛や新選組の齋藤一ら約千人が守る高田を長州藩を主力とする西軍約二千人が囲み街は焼失しました。



堂前に駐車。会津戦争で焼失した高田は、店や家を少し下げて現在のよように道を広くしました。

「浮き身をば 助け 給へや

観世音 導きたまへ

弥陀の浄土へ

天台宗 道樹山 龍興寺 住職住

会津美里町字龍興寺北甲二二二二一三

本尊 聖観世音

駐車場 あり

トイレ なし

国宝の一字蓮台法華経があることで知られています。堂は、もと東邦銀行高田支店の地にありましたが、現在地に移されています。本尊は木像で、永禄二年(一五五九)の銘があります。永禄三年(一五六〇)には、後の天海、当時の名を髓風といい前の地にあった堂内で得度したという。寛永六年(一六二九)と会津戦争で堂が焼失しています。



寺北側に駐車。天海大僧正と国宝の一字蓮台法華経のある寺として知られています。

「参り来て 西をはるかに

ながむれば 雨つゆしげき

古かたの沼

天台宗 雷田山 法用寺

会津美里町雀林三番山下三五五四

本尊 一面観世音 集落管理

駐車場 あり

トイレ あり

国重要文化財・県指定文化財
養老四年(七二〇)徳道上人が草創。もとは、西の山上にあったという。一六世紀までは、十六の僧房があったという。文化財も多く、仁王像と本堂は国重要文化財に指定されています。境内には、会津五楼の「虎の尾楼」や県指定の三重塔があります。正月には、藁で蛇を作り村内を歩く「へびの御年始」があります。



堂北に駐車場あり。集落内道路狭し。「巡り来て」は「参り来て」が正しい。三重塔、国重文の堂や仁王像があります。



「巡り来て よもの ち里を
眺むれば これぞ 会津の
中田なるらん」

曹洞宗 普門山 弘安寺 住職住
会津美里町米田字堂ノ後甲一四七
本尊 十一面観世音
駐車場 あり
トイレ あり

国重要文化財

文永十年(一二七三)六月十七日、佐布川の江川長者常俊は、一人娘が亡くなったのを悲しみ、翌年の八月八日観音像を安置します。国重要文化財です。寺は、弘安二年(一二七九)村主の冨塚盛勝と地頭の穴沢義光が建てます。厨子も指定文化財で、会津ころり観音の一つ。観音堂は、宝暦七年(一七五七)に建てられたものです。夏至に、磐梯山頂から日が昇ります。



堂前に駐車。「会津ころり三観音の一つ」

「はるばると 参りて 拜む
えりゆう寺 いつも
絶えせぬ 松風の音」

真言宗 金塔山 福寿院 惠隆寺
会津坂下町塔寺字松原二九四四
本尊 千手観世音 住職住
駐車場 あり
トイレ あり

本尊・本堂 国重要文化財

大同三年(八〇八)僧徳一により建立。高寺が荒廃し、建久三年(一一九二)寺をここに移したとされています。本尊は、立ち木から作ったとされ、国の重要文化財です。堂は、慶長十六年(一六一三)の慶長会津大地震で倒壊し、元和三年(一六一七)に再建された国重要文化財。ころり観音のひとつ。



堂前に駐車。「会津ころり三観音の一つ」

「春は花 夏は青木に
しげりつつ 秋はもみじに
そむる つゆしも」

浄土宗 本現山 正徳寺
会津坂下町大字青津字本丁七一
聖観世音 無住 集落管理
駐車場 あり
トイレ なし

国史跡、四世紀前半の全長一二三メートル、会津最大の前方後円墳、亀ヶ森古墳の後円部に建てられています。天文(一五三二)頃、岬岡が中興します。観音堂は、元、青木にありましたが慶長十一年(一六一一)の会津慶長大地震で倒壊し村は山崎湖に沈んだことから、青津の高台、現在地に移されています。

国史跡、四世紀前半の全長一二三メートル、会津最大の前方後円墳、亀ヶ森古墳の後円部に建てられています。天文(一五三二)頃、岬岡が中興します。観音堂は、元、青木にありましたが慶長十一年(一六一一)の会津慶長大地震で倒壊し村は山崎湖に沈んだことから、青津の高台、現在地に移されています。



集落内道路狭し。もとは「青木観音」でしたが、地震で現在地に移されてからは「青津観音」と呼んでいます。御詠歌に名残りの「青木」が入っています。



「参るより 恵みも 深き
おん池の 池のはちす葉
我を 待つらん」

曹洞宗 羽黒山 西光寺 住職住
会津坂下町字大字御池田字寺ノ前一五二
本尊 聖観世音

駐車場 あり
トイレ なし

天正元年（一五七三）会津若松市東山町の天寧寺から春広という僧が来て、集落の北に開基します。その後、寛文（一六六一〜一七三）頃には、僧の重海が小庵を営みますが、享保八年（一七二三）、僧の郭瑞が現在地に移します。本尊の聖観音座像は、七寸八分で、昔、池の中から見つかったものだといふ。



三十三番札所です。「池の蓮は」は「池の蓮葉」が正しい。

「柳津は 岩にそびえて
かけ造り 前には
只見の 舟の浮橋」

臨済宗 靈巖山 円蔵寺 住職住
柳津町大字柳津字寺家町甲一七六
本尊 聖観世音

駐車場 あり
トイレ あり

柳津の虚空蔵堂として知られています。大同二年（八〇七）に徳一により創建されます。慶長一六年（一六一一）の慶長会津大地震で倒壊し、再建されます。現在の堂は、その後火災で焼失し安永五年（一七七六）に再建されたものです。「赤べこ」は、元和三年（一六一七）に堂が再建された時、只見川から材木を運んで活躍した「赤牛」がもとになっています。



堂内撮影禁止です。静かに参拝しましょう。「赤べこ」発祥の地です。観音像は、本堂を外に出て西から裏に回った場所にあります。

「かねこわき 山の如きの
のりの寺 まこと だい悲の
浄土なるらん」

真言宗 金剛山 如法寺 住職住
西会津町野沢字如法寺乙三五三三
本尊 聖観世音

駐車場 あり
トイレ あり

県指定文化財
大同二年（八〇七）徳一により建立されという。堂は、慶長十六年（一六一三）の慶長会津大地震で倒壊し、慶長十八年（一六一五）蒲生忠郷により再建されました。東口の三猿と西口の梅に鶯の彫刻を見つけると願いが叶うとされています。ころり観音のひとつ。北側に蕎麦屋があります。



堂ここから奥に車で10分行くと「大山祇神社」があります。「会津ころり三観音の一つ」

